大学発のバイオVB協が発足

大学関係者が医療・バイオテクノロジー分野の知的財産を活用して創業する大学発バイオベンチャー（VB）の業界団体「大学発バイオベンチャー協会」が十九日に設立され、同日発起人会が行われた。大学発VBの業界団体が設立されるのは初めて。

会長に水島裕・東京慈恵会医大DDS研究所長（LTTバイオファーマ会長）、副会長に上田実・名古屋大大学院医学研究科教授（JーTEC取締役）と森下竜一・大阪大大学院医学系研究科教授（アンジェスMG監査役）がそれぞれ就任。当初は正会員として二十八社の大学発バイオVBが参加。将来的には百社の正会員獲得をめざす。

同日会見した水島会長は「大学で生まれたシーズ（種）を育てる上で、特許や人事、資金、税法などに関してまだまだ問題が多い」と設立の趣旨を述べ、「（政府に対する）要望書の案をまとめ、この秋にも出したい」との考えを示した。

アンジェスMGは第一回日本バイオベンチャー大賞（主催・日本工業新聞社）でグランプリ、LTTバイオファーマ（日エルティーティー研究所）は第二回の同大賞で日本工業新聞創刊七十周年特別賞をそれぞれ受賞している。

会見する会長の水島裕・東京慈恵会医大DDS研究所長㊧、副会長の上田実・名大大学院教授㊥と森下竜一・阪大大学院教授（19日、東京・丸の内のパレスホテル）

大学発バイオベンチャー協

大学教授ら結成

バイオベンチャーにかかわる大学教授らが十九日、創業と成長を相互に支援する組織「大学発バイオベンチャー協会」を結成する。経験や知恵を持ち寄り、学内の研究を充実させて起業を促進する。医薬品の治験・審査の迅速化、技術移転の円滑化などで、関係省庁に制度改革を働きかけることも検討している。

会長には東京・港）会長の水島裕東京慈恵医大DDS研究所長が就任する見通し。約四十社の大学発バイオベンチャー関係者が参加する予定。協会は大学教授がベンチャーキャピタリストや製薬会社関係者、弁理士などと交流する場を提供する。